

三遊亭円楽一門が贈る“伝える力”は“生きる力”

「言葉を送るのではなく、話のビジョンをしゃべる。そうすればよく伝わるんです。」70歳を超えた今も大活躍中の三遊亭円楽師匠のことばです。落語を鑑賞し、落語を知って、コミュニケーションの極意を学ぼう! “伝える力”は“生きる力”にきっとなります。

伝える「力」は「生きる」力!
「伝える」力!
「生きる」力!

標準プログラム 80分(休憩あり)

知ってみよう!
想像してみよう!

① 枕ばなし 15分

落語ってどんな世界だろう? クイズ形式で解説しながら、落語の世界を案内します。

聞いてみよう!

② 落語鑑賞 20分

落語家2名が2演目をお話致します。

見てみよう!

③ 色物鑑賞 15分

伝統芸能“太神楽”を楽しんでいただけます。

— 休憩10分 —

体験してみよう!

④ ワークショップ 20分

落語の仕草・囃り物などにチャレンジしていただけます。

※色物鑑賞なしのショートプログラム(45分)公演も可能です。※あらすじ等を書いた事前資料を公演前にお送りいたします。



～ 落語を通して ～

映画、テレビ、漫画、お芝居。巷に溢れるものは画を想像する必要がないモノばかりです。小説、ラジオのような少ない情報の中から画を想像していくモノはどんどんなくなっていっております。しかし、この「画を想像する力」は児童・生徒さんの成長過程でたくさんの方に役に立つ力です。

落語は画を想像していただかないと全く面白味がありません。

若い人、お年寄り、子供、様々な人を一人の芸人が会話だけで表現していきます。

落語を通して、楽しみながら画を描く力を養って頂けるプログラムとなっております。



三遊亭楽生(さんゆうてい らくしょう) (監修)

1997年4月 8代目三遊亭 円楽(三遊亭 楽太郎)入門、「楽花生」を名乗る

2001年3月 同名のまね二つ目昇進

2008年3月 「楽生」と名を改め真打昇進

笑点でお馴染み6代目三遊亭円楽の総領弟子

上智大学非常勤講師

埼玉応援団団員(埼玉県観光大使)

さいたま観光大使(さいたま市観光大使)

幸手市しあわせ応援大使(幸手市観光大使)



舞台イメージ



囃り物を使う場面

幽霊の場面
笛で「ヒュー」
大太鼓で「ドドロドロ…」



笛(笛簫)



川の場面
大太鼓で速い川なら「ドンドン」
遅い川なら「どーんどーん」



大太鼓



夜の場面
先の丸いバチでぞらを
「ぼーん…」とつく



締太鼓



鉦(かね)



どち